

甲 第 号

藤本 源 学位請求論文

審 查 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	吉栖 正典
論文審査担当者	委員	教授	上村 秀樹
	委員(指導教員)	教授	斎藤 能彦

主論文

Long-term prognosis of patients undergoing radiofrequency catheter ablation for atrial fibrillation:

Comparison between heart failure subtypes based on left ventricular ejection fraction

心不全を合併した心房細動患者のカテーテルアブレーション後の長期予後：左室駆出率に基づいた心不全のサブタイプ間における比較

Hajime Fujimoto, Naofumi Doi, Satoshi Okayama, Masaki Naito, Atsushi Kobori, Kazuaki Kaitani, Koichi Inoue, Toshiya Kurotobi, Itsuro Morishima, Hirosuke Yamaji, Yumie Matsui, Yuko Nakazawa, Kengo Kusano, Kaeko Hirai, Takehito Nakai, Megumi Suzuki, Hiroki Yano, Satoshi Sakai, Takeshi Kimura, Satoshi Shizuta, and Yoshihiko Saito; On behalf of the KPAF investigators

Europace. 2021 00,1-11 doi:10.1093/europace/euab201

論文審査の要旨

一般的に、心不全(HF)は左室駆出率(EF)により {HFrEF (HF with reduced EF: EF<40%)、HFmrEF (HF with mid-range EF: EF 40-49%)、HFpEF (HF with preserved EF: EF ≥50%)} に層別化され、予後は同様に不良である。心房細動 (AF) と心不全は合併することが多いが、心房細動に対するカテーテルアブレーション治療の心不全患者における予後への効果は、未だ不明な点が多い。

藤本源は、AF 症例でカテーテルアブレーション治療を実施された症例を対象にした Kansai plus atrial fibrillation (KPAF) レジストリに登録された 5010 人から、HF 既往のある患者 656 人を選び出し、アブレーションの主要評価項目である全死亡、心不全入院、脳卒中と全身性塞栓症の複合エンドポイントに与える効果を検討した。

KPAF レジストリで主要評価項目のイベント発生率は、HFrEF 32.7%、HFmrEF 11.7%、HFpEF 11.6% (P<0.001) であり、HFrEF 群で有意に発生率が高く、アブレーションが HFmrEF や HFpEF の予後を改善した可能性を示した。

公聴会では、心不全の弁膜症等病因別のサブ解析、AF が発症してからアブレーションまでの時間によるサブ解析に対して質問されたが、病因別には、症例数の問題で詳しくは解析していないこと、アブレーションの時期は早期であるほど、効果が大きかったと回答された。また、本研究の臨床的意義に関しては、HFmrEF や HFpEF で AF を合併している症例でよりアブレーションが有効である可能性があり、将来的に前向きの介入研究への重要な情報になったと回答された。

以上、適切な討議であり、参考論文を含め学位に値する研究と考える。

参 考 論 文

1. Efficacy of Antiarrhythmic Drugs Short-Term Use After Catheter Ablation for Atrial Fibrillation (EAST-AF) trial.
Kaitani K, Inoue K, Kobori A, Nakazawa Y, Ozawa T, Fujimoto H, et al. *Eur Heart J* 2016; 37: 610–618.
2. Adenosine triphosphate-guided pulmonary vein isolation for atrial fibrillation: the UNmasking Dormant Electrical Reconduction by Adenosine Triphosphate (UNDER-ATP) trial.
Kobori A, Shizuta S, Inoue K, Kaitani K, Morimoto T, Fujimoto H, et al. *Eur Heart J* 2015; 36: 3276–3287.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに循環器病態制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和3年12月14日

学位審査委員長

情報伝達薬理学

教授 吉栖 正典

学位審査委員

先天性心疾患診断治療学・心臓形態

学

教授 上村 秀樹

学位審査委員(指導教員)

循環器病態制御医学

教授 斎藤能彦